

2019年の北陸地方の天候経過

—北陸地方の天候の特徴と気象トピックス—

(2019年は記録的な高温・かなりの多照)

- ◆ 冬(2018年12月～2019年2月)は、期間の後半を中心に寒気の影響が小さく、高温・かなりの少雨・かなりの少雪となった。
 - ◆ 春(3～5月)は、5月を中心に低気圧や前線は日本の北を通ることが多く、高気圧に覆われて晴れた日が多かったため、高温・記録的な多照となった。4月は寒気の影響を受けた時期もあり、平地で積雪となった所もあった。
 - ◆ 夏(6～8月)は、7月24日頃の梅雨明け後から8月中旬にかけて太平洋高気圧の張り出しが強まり、晴れて厳しい暑さが続いた。西日本を北上した台風第10号によるフェーン現象で、新潟県では8月15日に全国の日最低気温の高い方の累年極値(アメダス糸魚川)と2位(相川)を更新した。
 - ◆ 秋(9～11月)は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、日本付近に台風が接近・通過するなど南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、記録的な高温となった。10月12日から13日は東日本から北日本を上陸・通過した台風第19号の影響で大雨となり、新潟県で初めてとなる大雨特別警報が上越市、糸魚川市、妙高市に発表された。
 - ◆ 12月は、曇りや雨または雪の日が多かったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。寒気の影響が弱く冬型の気圧配置も一時的だったため、かなりの高温、かなりの少雪となった。
 - ◆ 北陸地方平均の年平均気温は2016年と2004年に並び、これまでで最も高い記録的な高温となった。
 - ◆ 台風の発生数は29個(平年25.6個)、日本への上陸数は5個(平年2.7個)で平年より多かった。北陸地方への接近数は6個だった(平年の北陸地方への接近数は2.5個)。(12月25日現在の速報値)
- ※北陸地方平均とは、北陸地方にある気象官署及び特別地域気象観測所(9地点)ごとの平年差(比)を平均したものです。

☆冬(2018年12月～2019年2月) —高温、かなりの少雨、かなりの少雪—

12月は日本付近を高気圧と低気圧が次々に通過したが、月末は強い冬型の気圧配置が続き、荒れた天気や大雪になった所があった。

1月は冬型の気圧配置が現れやすく、雪や雨の日が多かったが強い寒気の南下は一時的だった。

2月は寒気や発達した低気圧の影響は小さく、冬型の気圧配置は長続きしなかった。上旬から中旬にかけては雨や雪の日が多かったが、下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かった。

気温は、1月と2月はともに高かった。3か月平均では高かった。

降水量は、1月は少なく、2月はかなり少なかった。3か月合計ではかなり少なかった。

日照時間は、12月は少なく、2月は多く、3か月合計では平年並だった。

降雪量は、1月と2月はかなり少なく、3か月合計ではかなり少なく、1961年の統計開始から少ない方の2位を更新した(平年比27%)

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間・降雪量の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	12～2月	12月	1月	2月
平均気温平年差 階級	+0.9℃ 高い	+0.5℃ 平年並	+0.5℃ 高い	+1.5℃ 高い
降水量平年比 階級	82% かなり少ない	96% 平年並	84% 少ない	58% かなり少ない
日照時間平年比 階級	97% 平年並	79% 少ない	106% 多い	106% 平年並
降雪量平年比 階級	27% かなり少ない	46% 平年並	24% かなり少ない	22% かなり少ない

※ 2019年12月の降雪量は平年比3%でかなり少なく、1961年の統計開始から少ない方の2位を更新した(1位は2015年の平年比2%)。

☆春(3月～5月) ー高温・かなりの多照ー

3月と4月は、高気圧と低気圧が交互に通過して概ね数日の周期で変わった。3月上旬は、暖かい空気に覆われて晴れた日が多く、北陸地方の平均気温は1961年の統計開始から高い方の極値を更新した。4月上旬のはじめは寒気の影響で雪が降り、平地でも積雪となった所があった。

5月は低気圧や前線は日本の北を通ることが多く、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、北陸地方の全ての気象官署で日照時間の多い方の極値を更新し、北陸地方の日照時間は1946年の統計開始から多い方の極値を更新した。晴れたことによる強い日射の影響に加え、中旬は日本の東に中心を持つ高気圧から、下旬は西から暖かい空気が流れ込み、北陸地方の平均気温は1961年の統計開始から中旬で高い方の2位、下旬で高い方の極値を更新した。

気温は、4月は低く、3月と5月はかなり高かった。3か月平均では高かった。

降水量は、5月は少なかった。3か月合計では平年並だった。

日照時間は、3月は多く、5月はかなり多かった。3か月合計ではかなり多く、1946年の統計開始から最も多い記録的な多照となった(平年比123%)。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	3～5月	3月	4月	5月
平均気温平年差 階級	+0.9℃ 高い	+1.6℃ かなり高い	-0.7℃ 低い	+1.6℃ かなり高い
降水量平年比 階級	89% 平年並	91% 平年並	114% 平年並	64% 少ない
日照時間平年比 階級	123% かなり多い	109% 多い	97% 平年並	156% かなり多い

☆夏(6月～8月) ー高温ー

6月は、上旬は期間の中頃にかけて高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、7日以降は低気圧の通過や気圧の谷などの影響を受けて曇りや雨の日が続き、北陸地方は6月7日頃に梅雨入りをした。梅雨入り後は、気圧の谷や湿った空気などの影響で曇りや雨の日が多く、6月の終わりは北陸付近に停滞した梅雨前線の活動が活発となったため大雨となった所があったが、梅雨前線の北上が遅く、移動性高気圧に覆われて晴れの日が続いた時期もあった。

7月は、下旬前半にかけて太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱く、梅雨前線は本州南岸に停滞することが多く、曇りや雨の日が多かったが、前線が日本の南まで南下する時期もあり、降水量は少なかった。下旬の中頃からは前線が次第に北上して不明瞭となり、7月24日以降は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなったことから、北陸地方では7月24日頃に梅雨明けをした。

8月は、上旬から中旬にかけて太平洋高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さが続いた。14日から15日は西日本を北上した台風第10号によりフェーン現象が発生して顕著な高温となり、新潟県では15日に累年による全国の日最低気温の高い方の極値(アメダス糸魚川31.3℃)と2位(相川30.8℃)を更新した。このため北陸地方では、1961年の統計開始から、8月上旬と中旬の平均気温は高い方の2位を、8月上旬の日照時間は多い方の極値を更新した。8月下旬になると秋雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなり、前線の活動が活発となって大雨となった日があった。

気温は、6月と8月は高く、3か月平均では高かった。

降水量は、6月は多く、7月は少なく、8月はかなり多かった。3か月合計では平年並だった。

日照時間は、6月は多かった。3か月合計では平年並だった。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	6～8月	6月	7月	8月
平均気温平年差 階級	+0.7℃ 高い	+0.5℃ 高い	+0.6℃ 平年並	+1.1℃ 高い
降水量平年比 階級	110% 平年並	142% 多い	49% 少ない	165% かなり多い
日照時間平年比 階級	103% 平年並	113% 多い	87% 平年並	108% 平年並

☆秋(9月～11月) ーかなりの高温、少雨・多照ー

9月は、前線や湿った空気、低気圧などの影響で曇りや雨の日が続いた時もあったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。複数の台風が日本に接近または上陸・通過し、暖かい空気が流れ込んだ影響もあり、かなりの高温、かなりの少雨、かなりの多照となった。

10月は台風や低気圧および前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込みやすかった。12日から13日には東日本から北日本を上陸・通過した台風第19号の影響で大雨となり、新潟県で初めてとなる大雨特別警報が上越市、糸魚川市、妙高市に発表され、北陸地方の10月中旬の降水量は1961年の統計開始から多い方の2位を更新した。また、10月上旬と下旬は周期的に通過する低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込み、10月下旬の北陸地方の平均気温は、1961年の統計開始から高い方の極値を更新した。

11月は気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨または雪の降った日もあったが、日本の北を低気圧が通過することが多かったため下旬を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多く、かなりの少雨、かなりの多照となった。北陸地方の11月下旬の降水量は、1961年の統計開始から少ない方の極値を更新した。

気温は、9月と10月はかなり高かった。3か月平均はかなり高く、1946年の統計開始から2004年と並び最も高い記録的な高温となった(平年差+1.2℃)。

降水量は、9月と11月はかなり少なく、10月はかなり多かった。3か月合計では少なかった。

日照時間は、9月と11月はかなり多く、10月はかなり少なかった。3か月合計では多かった。

3か月平均(合計)と月別の平均気温・降水量・日照時間の平年差(比)と階級				
北陸地方平均	9～11月	9月	10月	11月
平均気温平年差 階級	+1.2℃ かなり高い	+1.6℃ かなり高い	+1.6℃ かなり高い	+0.4℃ 平年並
降水量平年比 階級	77% 少ない	40% かなり少ない	154% かなり多い	56% かなり少ない
日照時間平年比 階級	108% 多い	120% かなり多い	82% かなり少ない	129% かなり多い

☆12月

冬型の気圧配置や気圧の谷、寒気の影響で、曇りや雨または雪の日が多かったが、高気圧に覆われて晴れた日もあった。寒気の影響が弱く冬型の気圧配置も一時的だったため、かなりの高温、かなりの少雪となった。

☆年

2019年の北陸地方の平均気温の平年差は+1.0℃で平年よりかなり高く、2016年および2004年と並び1946年の統計開始から最も高い記録的な高温となった。月別で「高い」階級となった月は1月、2月、6月、8月で、「かなり高い」階級となった月は3月、5月、9月、10月、12月(平年差+1.4℃)だった。「低い」階級となった月は4月、「かなり低い」階級となった月はなかった。

年降水量の平年比は86%で平年より少なかった。月別で「多い」階級となった月は6月で、「かなり多い」階級となった月は8月、10月だった。「少ない」階級となった月は1月、5月、7月、12月(平年比72%)で、「かなり少ない」階級となった月は2月、9月、11月だった。

年間日照時間の平年比は112%で平年よりかなり多かった。月別で「多い」階級となった月は1月、3月、6月、12月(118%)で、「かなり多い」階級となった月は5月、9月、11月だった。「少ない」階級となった月はなく、「かなり少ない」階級となった月は10月だった。

なお、気象官署と特別地域気象観測所の値は表1のとおりで、北陸地方の年平均気温の経年変化は長期的には上昇傾向である(図1)。気象官署と特別地域気象観測所の年別の順位更新は表2、季節別の順位更新は表3、月別の順位更新は表4のとおりである。

表1 2019年の北陸地方の年統計値

	年平均気温		年降水量		年間日照時間	
	実況(°C)	平年差(°C)	実況(mm)	平年比(%)	実況(h)	平年比(%)
新潟	14.6	+1.0	1352.0	74	1832.6	112
相川	14.8	+0.9	1358.5	90	1871.4	115
高田	14.4	+0.8	2846.5	103	1712.7	108
富山	15.2	+1.1	2097.5	91	1738.3	108
伏木	14.9	+1.0	1791.0	80	1801.3	112
金沢	15.8	+1.2	2009.5	84	1895.6	113
輪島	14.3	+0.8	1764.5	84	1791.9	115
福井	15.6	+1.1	1851.5	83	1777.1	110
敦賀	16.3	+1.0	1793.5	84	1732.2	111
北陸平均		+1.0		86		112

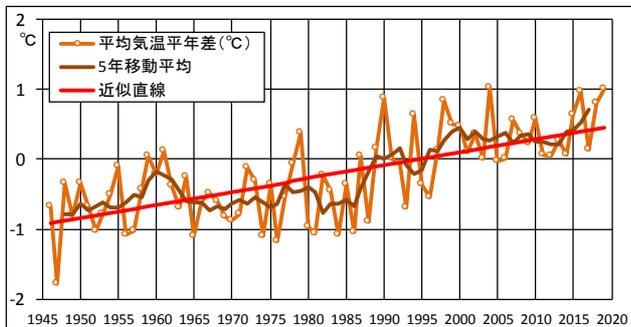


図1 北陸地方の年平均気温経年変化

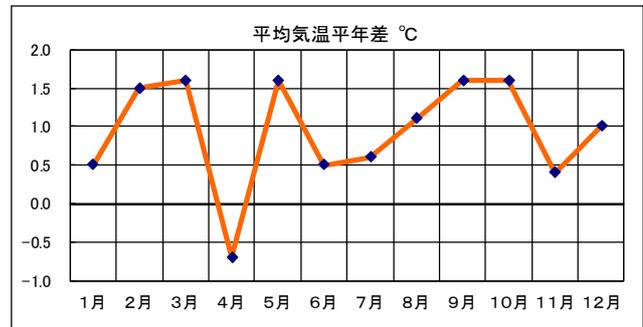


図2 北陸地方の月別平均気温平年差(°C)

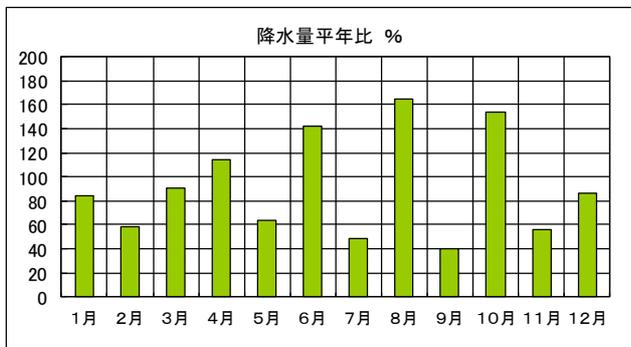


図3 北陸地方の月別降水量平年比(%)

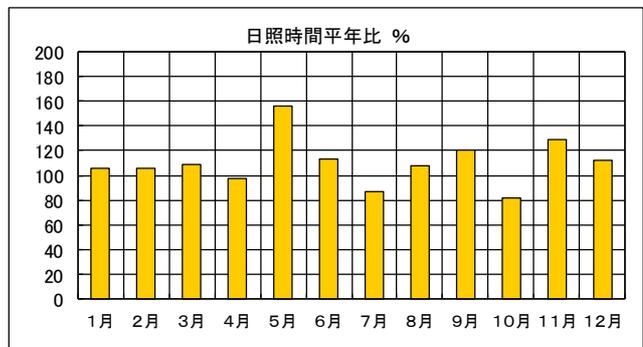


図4 北陸地方の月別日照時間平年比(%)

注1：平年値としては、1981～2010年の30年平均値を使用している。

注2：本文中の平年差・比は、北陸地方の気象官署・特別地域気象観測所平均(9地点)の値である。なお、北陸平均の統計開始は1946年。

注3：表1で、値の横に)がある場合、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けていますが、正常値(資料が欠けていない)と同等に扱います(準正常値)。

表2 2019年の年別で順位を更新した記録(3位以内)

◎年の平均気温の高い方からの順位更新

年	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高(西暦年) ℃	統計開始年	平年値 ℃
2019	1	相川	14.8	+0.9	14.7(2004)	1911	13.9
		富山	15.2=	+1.1	15.2(2016)	1939	14.1
		伏木	14.9=	+1.0	14.9(2016)	1883	13.9
		金沢	15.8=	+1.2	15.8(2004)	1882	14.6
		福井	15.6=	+1.1	15.6(2016)	1897	14.5
	2	輪島	14.3=	+0.8	14.5(2004)	1929	13.5
	3	新潟	14.6	+1.0	14.9(1990)	1881	13.6
		敦賀	16.3=	+1.0	16.4(2016)	1897	15.3

注) =はタイ記録を示す。

◎年の降水量の少ない方からの順位更新

年	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最小(西暦年) mm	統計開始年	平年値 mm
2019	3	新潟	1352.0	74	1273.1(1928)	1881	1821.0

表3 2019年の季節(3か月)別で順位を更新した記録(3位以内)

◎3か月間平均気温の高い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高(西暦年) ℃	統計開始年	平年値 ℃
9-11	1	金沢	18.5=	+1.4	18.5(1998)	1882	17.1
		福井	18.3	+1.5	18.0(2011)	1897	16.8
		敦賀	19.2	+1.4	19.0(2004)	1898	17.8
	2	富山	17.7=	+1.2	17.8(2004)	1939	16.5
		伏木	17.8	+1.2	18.0(1961)	1884	16.6

注) =はタイ記録を示す。

◎3か月降水量の少ない方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最小(西暦年) mm	統計開始年	平年値 mm
12-2	2	福井	500.0	68	487.0(2007)	1897	733.4
	3	金沢	531.5	73	480.5(1975)	1882	726.4
		伏木	475.5	68	442.5(1979)	1883	695.6

◎3か月間の日照時間(多い方から)の順位更新

月	順位	官署	実況値 h	平年比 %	これまでの最大(西暦年) h	統計開始年	平年値 h
3-5	1	新潟	640.4	127	609.6(1940)	1892	504.2
		相川	644.5	127	634.7(1961)	1912	505.9
	2	高田	628.6	126	678.2(1940)	1922	497.8
		伏木	604.4	119	613.4(1940)	1893	505.9
		金沢	632.3	120	669.6(1891)	1891	529.0
		輪島	658.2	127	667.1(1931)	1930	516.8
	3	富山	588.1	118	640.0(1940)	1939	497.2
		福井	591.0	121	597.5(1919)	1898	489.4

表4 2019年の月別で順位を更新した記録(3位以内)

◎月平均気温の高い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 ℃	平年差 ℃	これまでの最高(西暦年) ℃	統計開始年	平年値 ℃
3	2	相川	7.9	+1.7	8.0(2002)	1912	6.2
	3	高田	7.3	+1.9	7.6(2018)	1922	5.4
		富山	8.2	+1.9	8.7(2018)	1939	6.3
		金沢	8.5	+1.6	9.0(2002)	1882	6.9
5	2	相川	17.3	+1.8	17.4(2016)	1911	15.5
		富山	18.9=	+1.9	19.6(2015)	1939	17.0
		伏木	18.1=	+1.7	18.8(2015)	1884	16.4
	3	金沢	19.2	+2.1	19.5(2015)	1882	17.1
		福井	19.3=	+1.6	19.7(2015)	1897	17.7
9	3	福井	24.8=	+2.1	25.1(1999)	1897	22.7
		敦賀	25.5	+2.1	25.6(2007)	1898	23.4
10	2	輪島	17.6=	+1.7	18.1(1998)	1929	15.9
	3	相川	18.2	+1.3	18.7(2013)	1911	16.9
		金沢	18.7	+1.6	19.3(1998)	1882	17.1
		福井	18.5	+1.9	18.8(1998)	1897	16.6
12	2	富山	7.4=	+1.7	7.7(1968)	1939	5.7
		金沢	8.3=	+1.6	8.8(1890)	1882	6.7
	3	相川	8.2=	+1.3	8.4(2008)	1911	6.9

注) =はタイ記録を示す。

◎月降水量の少ない方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 mm	平年比 %	これまでの最小(西暦年) mm	統計開始年	平年値 mm
2	1	金沢	93.0	54	94.5(2003)	1882	171.9
	2	伏木	78.5	48	66.1(1887)	1884	164.3
		福井	73.0	43	63.5(2014)	1897	169.7
9	1	敦賀	37.0	20	54.4(1928)	1898	188.2
	2	金沢	55.5	25	21.6(1895)	1882	225.5
		福井	62.0	31	60.5(1995)	1897	202.3
11	1	伏木	89.0	39	94.8(1952)	1884	230.6
	2	敦賀	57.0	31	56.5(1984)	1897	185.0
12	1	新潟	94.0	43	97.5(1974)	1881	217.4
	3	金沢	171.0	61	138.0(1974)	1882	282.1

追加事項) 新潟の12月の降水量の少ない方から1位の内容を追加。

◎月間日照時間の多い方からの順位更新

月	順位	官署	実況値 h	平年比 %	これまでの最大(西暦年) h	統計開始年	平年値 h
5	1	新潟	312.3	155	263.6(1940)	1892	202.1
		高田	302.8	154	281.0(1940)	1922	196.3
		相川	311.5	160	278.0(1911)	1911	195.0
		富山	306.6	160	273.9(1940)	1939	191.1
		伏木	307.8	157	274.6(2015)	1893	196.1
		金沢	310.4	153	295.5(1891)	1891	202.3
		輪島	307.2	152	289.2(1940)	1929	201.9
		福井	289.9	157	263.9(2015)	1898	185.0
		敦賀	280.0	159	269.4(1940)	1914	176.6
11	2	伏木	135.7	136	141.3(1954)	1893	100.1
		金沢	140.2=	135	145.2(1909)	1891	104.1
	3	福井	153.0	139	165.4(1954)	1898	110.0

注) =はタイ記録を示す。